

その他(文献検討)

## 離島における保健師の保健活動の特徴に関する文献検討

岡崎実子<sup>1)</sup>

キーワード：離島、保健師、保健活動、特徴

Key words: Remote islands Public health nurse Health activities features

### I. はじめに

近年、我が国の地域における保健師の保健活動は、地域包括ケアシステムの推進、特定健康診査・特定保健指導制度の導入、がん対策、自殺対策、肝炎対策、虐待防止対策等に関する法整備等、保健師の活動を巡る状況は大きく変化し、新たな健康課題へのニーズに応じた保健活動の展開が求められている(加藤ら, 2018)。また、子育て世代包括支援センターの設置や、児童相談所への保健師の配置など、保健師の保健活動は複雑多様化し、その役割は増大し業務量も増加している。

離島へも人口規模に応じて自治体保健師が配置されているが、島から移動するための負担が大きければ大きい程、職種・定員・実働の面から島の専門職が不足する(野口, 2014)ため、保健医療福祉従事者の確保・定着が難しく、特に小規模離島町村は保健福祉事業等の実施へも影響を及ぼしている(春山, 2008)。また、離島では保健、医療、福祉に携わる専門職も少ないことから、専門家の役割が独立せず、役割分担が明確でなくなり(大平ら, 2002)、保健や医療、福祉活動を分化せずに実施するなどの特徴がある。さらに離島では、限られた専門職が連携しながら多機能性を発揮するジェネラリストであり、地域のことをよく知り住民の力を活用するスペシャリストとしての役割が求められている(大湾ら, 2020)。

都市部では保健、医療、福祉、介護等の多様な分野に保健師が配置され、地域における保健師の保健活動に関する指針(厚生労働省, 2013)に沿って統括保健師を配置し、組織横断的な総合調整や保健師の指導体制の整備がなされ、人材育成を進めている。一方で、離島の保健師は、少数の専門職で保健や医療、福祉活動を分化せず、多機能を発揮し活動することが必要と考えるが、その活動の方法や支援体制についての研究は少ない。

石垣ら(2016)は、島嶼における地域看護活動の展開方法を明らかにし、以下の3点について論じている。一つは看護職が発想の転換によって島嶼の有利性に気づき、二つ目は住民であることと行政保健師であることを一体化し、三つめは住民主体の地域看護活動を展開することである。しかし、地域看護活動には保健師の保健活

動だけではなく、診療所看護師や訪問看護活動についても包含されることから、離島の保健師による保健活動に焦点をあて、その特徴を明らかにする必要がある。

本研究の目的は、資源や専門職の少ない離島の保健師の保健活動には、どのような特徴があるのかを、文献検討により明らかにすることである。

### 用語の定義

離島の保健師の保健活動: 周囲を海に囲まれている“環海性”(海洋性)、本土の経済中心から遠く離れている“遠隔性”(孤立・拡散性)、面積が狭い“狭小性”(分断性)という3つの離島の地理的特性や、文化、社会環境の影響を受けて行われる保健師の保健活動。

### II. 研究方法

#### 1. 対象文献の検索方法と選定

2022年1月までに発行された国内文献について、医学中央雑誌(Web版)を用いて検索した。キーワードを離島 and 保健師 and (保健師活動 or 地域看護活動 or 地域保健活動)とし、原著または報告に絞込み検索した。その結果、全てのキーワードを含む文献は75件であった。タイトルで保健師の保健活動に限定していない研究など21件、抄録内容からシステム構築など保健師の保健活動についての記述がない研究26件、本文から病院等での看護活動についての研究、公衆衛生看護婦駐在制度や戦後の保健師の保健活動の変遷についての研究16件を除外した。また、抽出した論文の引用文献等から3件を追加し、15件を分析対象とした(図1)。メディカルオンライン及びCiNiiでも同様に検索したが、新たに追加される文献はなかった。

#### 2. 分析方法

離島の保健師の保健活動の内容が記述されている箇所を、意味が損なわれないように取り出し、コードとした。さらに類似性や関連性のあるものについて分類し、サブカテゴリー、カテゴリーを作成し、離島の保健師の保健活動の特徴について考察した。これらの分析は、公衆衛生看護学を専門とする大学教員からスーパーバイズを受け、分析における信頼性、妥当性を確保した。

### III. 結果

#### 1. 選定文献の概要

著者、発行年、タイトル、研究目的、対象地区、データ収集方法について概要を示した(表1)。年代ごとに

1) 沖縄県立看護大学

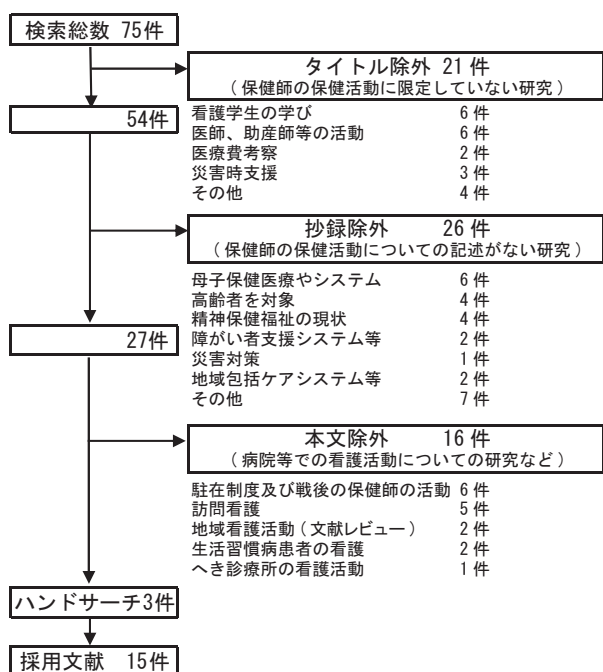


図1 文献抽出のフローチャート

見たところ、2000年以前の文献はなく、2000年～2009年までの文献は7件、2010年以降の文献は8件であった。沖縄県を対象地区とした文献は8件と最も多く、文献5, 8, 12, 13の4件は公衆衛生看護婦の実践や課題を明らかにすることが目的であった。文献6, 11, 14, 15の4件は、公衆衛生看護婦駐在制度が終了した後の保健師の保健活動の実際と支援に関する内容であった。また、全国の離島を対象とした文献は2件、沖縄県以外の離島を対象とした文献は5件であり、保健師の保健活動の実際についての文献は4, 9, 10, の3件、人材確保に関する文献は2, 7の2件、ルールにおける看護の特徴に関する文献は1, 3の2件であった。

## 2. 離島の保健師の保健活動の特徴について

離島の保健師の保健活動の特徴について分析した結果、116のコード、25のサブカテゴリー、9のカテゴリー、5つのコアカテゴリーに分類された(表2～6)。コアカテゴリーは、『専門職者としての第一歩を踏み出す活動』、『共同体の一員となり活動』、『住民性・専門性・公共性を駆使し連携・協働して活動』、『保健師の保健活動の役割・機能の統合や創造』、『保健師の保健活動のスキル向上』の5つであった。離島の保健師の保健活動の特徴について記述されたサブカテゴリーを〈〉、カテゴリーを【】、コアカテゴリーを『』で表した。

### 1) 専門職者としての活動

21のコードから、サブカテゴリー〈互助が豊かな暮らし〉〈公私の区別の曖昧さ〉〈セルフケアへの意識〉〈島の文化や社会的特性を理解〉〈公私の区別の曖昧さを受容〉〈住民の個人情報の保護〉の6つが生成され、これらは2つのカテゴリー【島の住民の文化・習慣・生活の

特徴】『島の文化や社会的特性を踏まえて活動』に統合され、これをコアカテゴリー『専門職者としての第一歩を踏み出す活動』とした(表2)。

### 2) 生活者としての活動

37のコードから、サブカテゴリー〈生活者として地区活動に参加し地域を把握〉〈生活での接点を活用し、保健活動を住民に周知〉〈生活を通じて個人・家族の人間関係や行動パターンを把握〉〈生活を通じて離島のニーズを把握〉〈生活を通じて住民の経過を観察し保健活動を評価〉〈活動の公平性を保つ〉〈地域や住民を熟知していると過信せずに活動を評価〉の7つが生成され、これらは2つのカテゴリー【生活者の立場を活かして活動】『生活者の立場を過信せず活動』に統合され、これをコアカテゴリー『共同体の一員となり活動』とした(表3)。

### 3) 住民との連携・協働のあり方

17のコードから、サブカテゴリー〈生活者として住民と協働〉〈保健師として住民と協働〉〈公僕として上司や同僚等の行政職と協働〉の3つが生成され、これらは1つのカテゴリー【立場を変え住民と連携・協働】に統合され、これをコアカテゴリー『住民性・専門性・公共性を駆使し連携・協働して活動』とした(表4)。

### 4) ニーズに沿った役割・機能

20のコードから、サブカテゴリー〈多機能を発揮〉〈役割・機能を再構成〉〈住民と生活を共にし、ニーズを捉え柔軟に対応〉〈島ならではの活動のあり方を創造〉の4つが生成され、これらは2つのカテゴリー【役割・機能を統合し多機能を発揮】『島ならではの活動を創造』に統合され、これをコアカテゴリー『保健師の保健活動の役割・機能の統合や創造』とした(表5)。

### 5) 公衆衛生看護技術の向上

21のコードから、サブカテゴリー〈島外の保健師から技術支援を受け活動〉〈島外の専門職から人材支援や研修を受け活動〉〈島内の異職種をモデルに活動〉〈1人で模索しながら活動〉〈住民との関わりを学びと捉え活動〉の5つが生成され、これらは2つのカテゴリー【島外の専門職から支援を受け活動】『島内で工夫してスキルを磨き活動』に統合され、これをコアカテゴリー『保健師の保健活動のスキル向上』とした(表6)。

これらから、離島の保健師の保健活動は、『専門職者としての第一歩を踏み出す活動』から始まり、生活者として住民と共に『共同体の一員となり活動』し、時には立場を変え『住民性・専門性・公共性を駆使して連携・協働して活動』し、『保健師の保健活動の役割・機能の統合や創造』を行い、これらを行き来しながら生活者と専門職者の役割を統合して活動する特徴があることを導き出した。(図2)。

## IV. 考察

離島の保健師の保健活動の特徴について整理した結果、25のサブカテゴリー、9のカテゴリー、5つのコアカテゴリーに分類された。これらを基に、離島に赴任し

表1 選定文献の概要

文献 No.	著者 (発行年)	タイトル	研究目的	対象 地区	データ収集方法 / 調査年
1	稲垣絹代 (2000)	超高齢過疎地区で高齢者が生きる意味—瀬戸内海島嶼部での民族看護学的アプローチ—	超高齢過疎地区C島で生きる高齢者の生きる意味を明らかにすることによって、高齢者の看護に関連する未知の看護現象を発見する	瀬戸内海 離島	半構成的面接 /1999
2	美濃千里 (2001)	離島の町が保健師を確保していった足跡	離島からなる家島町での保健師を定着させるための支援を振り返る	瀬戸内海 離島	支援活動報告 /1987-2000
3	大平肇子ら (2002)	日本におけるルーラルナーシングの役割モデルについての研究	わが国に適したルーラルナーシングを構築するために、まずM県内のルーラルにおける看護の特徴を明らかにし、看護の役割モデルを検討する	M県 離島山村	半構成的面接 /1999-2000
4	田中美延里ら (2005)	先駆的な公衆衛生看護活動を展開した保健師のキャリア発達—離島の町の保健師のライフストーリーから—	先駆的な公衆衛生看護活動を展開した一人の保健師の仕事生活に関連する体験を検討し、その特質を明らかにする	瀬戸内海 離島	半構成的面接 /2001
5	大湾明美 (2007)	離島の保健医療看護—公衆衛生看護師の「活動遺産」を引き継ぐ—	離島の公看活動を概観し、過去の駐在制による公看活動の事例から今に引き継がれた活動遺産を紹介し、残された課題について考察する	沖縄県	事例報告 /2007
6	大湾明美ら (2008)	小離島における「在宅死」の実現要因から探る看護職者の役割機能—南大東島の在宅ターミナルケアの支援者たちの支援内容から—	小離島において過去の在宅ターミナルケアの実際に関わった支援者たちの支援内容から、「在宅死」の実現要因を探り、看護職者の役割機能をみいだす	沖縄県	半構成的面接 /2007
7	春山早苗 (2008)	島嶼地域の看護人材確保と提言	保健師の確保と定着のために必要な条件を明らかにする	東京都 島嶼町村	面接及び質問紙調査 /2005
8	川崎道子ら (2012)	沖縄県における保健師駐在制のメリット・デメリットおよび継承すべき能力	保健師駐在制を経験した保健師の継承すべき能力およびその継承方法を考察する	沖縄県	半構成的面接及び無記名自記式質問調査 /2009
9	青木さぎ里ら (2013)	離島保健師が離島内に居住することと地域看護活動との関連	離島において保健師が住民と同じ地域で生活することと地域看護活動との関連の有無、及び、関連する地域看護活動を明らかにし、住民のヘルスニーズを充足でき離島という地域特性に合った保健師の活動方法を考察する	全国	無記名自記式質問紙調査 /2010
10	青木さぎ里ら (2015)	離島内居住保健師の実践知とその獲得方法の検討—保健師自身の生活と地域看護活動とを結びつける認識に着眼して—	離島内居住保健師が持つ、保健師自身の生活と地域看護活動とを結びつける認識とその現れ方及び現れたきっかけを明らかにし、離島内居住保健師の実践知とその獲得方法を検討する	全国	半構成的面接 /2010
11	島袋尚美 (2016)	沖縄県中堅保健師のキャリア発達における保健師マインドの継承	沖縄県離島の中堅保健師のキャリア発達の過程と保健師マインドの継承についての想いや希望、離島行政機関における保健師現任教育についての想いを明らかにする	沖縄県	半構成的面接 /2012
12	畑下博世ら (2017)	現代保健師が獲得すべき態度とスキル—沖縄県島嶼における駐在保健師の実践からの検討—	沖縄県駐在保健師が置かれていた状況とその実践を明らかにし、現代保健師が獲得すべき態度とスキルについて考察する	沖縄県	半構成的面接 /2012
13	盛島幸子ら (2017)	島嶼における保健看護活動の評価のあり方—宮古保健所管内における母子保健活動の過程を通して—	島嶼における保健看護活動の評価のあり方の視点を明らかにする	沖縄県	資料分析 (1974 - 2008) 及びインタビュー
14	大湾明美ら (2020)	小離島における看・看連携推進のためのモデル開発	保健医療福祉の専門職が乏しい小離島において、看護師と保健師による看・看連携の実態から、小離島における看・看連携推進モデルを開発する	沖縄県	半構成的面接 /2015
15	永山さなえ (2020)	離島へき地の保健師活動に対する沖縄看護協会の支援	看護協会が受託した支援を報告	沖縄県	支援活動報告 /2015-2018

た保健師が、どのようなステップを踏みながら活動していくのか、その特徴について考察した。

### 1. 離島の保健師の保健活動の特徴について (図2)

まず、離島に赴任した保健師は、【島の住民の文化・習慣・生活の特徴】を理解し、〈互助が豊かな暮らし〉に馴染み、〈公私の区別の曖昧さを受容〉し【島の文化や社会的特性を踏まえて活動】し、専門職者としての第一歩を踏み出していく。行政職員は、〈島の文化や社会

的特性を理解〉しており、島について詳しく、具体的な情報提供や人物の紹介などができる(青木, 2018)。保健師は行政職員の協力を得て住民との関係性を築き、公僕としての姿勢を学ぶことが重要である。

次に、保健師は『共同体の一員となり活動』に参加し、地域や住民の人間関係、行動パターンを把握する等、【生活者の立場を活かして活動】すると同時に【生活者の立場を過信せず活動】することが求められる。生活者とし



表 2 専門職者としての活動

コード	文献 No.	サブカテゴリー	カテゴリー	コアカテゴリー
定期船の棧橋が家の玄関のようであり、外出や客人の全て島民は把握できている濃密な見守り態勢がある	1			
島には細やかな家族のような支え合いがあり、人口が減少すればするほど、助け合う絆も強まらざるを得ない	1			
不便さを感じながらも家族同然の住民ぐるみの助け合いが浸透した生活	1	互助が豊かな暮らし		
豊かな自然や人間関係が残されており、住民は信頼し支えてくれる人々と心置きなく分かち合える	1			
島民は祭礼行事には皆で集まり、準備から片付けまで協力して働き、島の繁栄を思い共同作業をする	1		島の住民の文化・習慣・生活の特徴	
よその子も自分の子と思う意識が強い	13			
住民同士の葛藤や軋轢も多く、世代間の意見の調整が困難である	1			
いつも住民の身近にいて私生活まで見られる	8		公私の区別の曖昧さ	
住民に保健師の私生活が知られている引け目があると、地域看護活動で関わりにくくなる	10			
公私の区別がつけられない気まずさを回避するために、休日は自宅で過ごし、生活での住民との接触を避ける	9			専門職者としての第一歩を踏み出す活動
保健師が地元出身者ゆえに内容によっては相談しにくいと思う住民がいることを意識する	9			
島民は健康障害が進行し、島での生活が不可能になると離島せざるをえないと覚悟している	1	セルフケアへの意識		
島の不便な環境が高齢者のセルフケアにつながる	1			
住民と同じ地域で生活することで、生活の苦楽や価値観を共有する	9		島の文化や社会的特性を理解	
長く住むことで住民の視点に近づき住民との認識の誤差を減らす	9			
住民が大切にしていることを知るために率先して同じ経験をし、生活に即した保健指導の方法を検討する	12			
島では地域の行事や集まりが大切にされる風土があり、地域の組織と絶えず連絡をとり、島の情報入手し、島の状況を先読みしながら根気よく働きかける	12		島の文化や社会的特性を踏まえて活動	
離島では住民誰もが公私の区別がつけられないことを受けとめる	9			
公私の区別がないことは活動に活かされると前向きに捉える	9	公私の区別の曖昧さを受容		
自分の生活が常に住民に見られていることを意識し、住民に実施した保健指導に反しない生活を送ることで、指導内容の信憑性や保健師への信頼性を高める	9			
個人情報漏れることを心配している住民が多くいることを意識する	9	住民の個人情報保護		

での経験が保健師の保健活動にも活かされるように、住民とのネットワークや連携体制を構築し、それらを活用して『住民性・専門性・公共性を駆使し連携・協働して活動』することが重要である。また石垣ら（2016）は、島嶼では、個人に生じた課題も全体の課題となり、全体の課題は個人の課題の解決につながるという、密着不可分性があると報告している。課題解決に向けて協働する人々も同じ島の住民であることから、課題を共有しやすく連携が容易であり、素早い対応ができるという有利性がある。これらを活かし、住民や行政職員と連携・協働して活動することが必要である。さらに、既存の保健師の役割・機能に捕らわれることなく、離島の保健師の保健活動の【役割・機能を統合して多機能を発揮】し、【島ならではの活動を創造】することを保健師は修得していく。この特徴について大湾（2007）は、離島の保健師は、専門性で役割分担し活動している都市部の保健師よりも、「生活の全体性」「生活の個別性」「生活の連続性」「生活の地域性」の視点を重視し、〈多機能を発揮〉し活動していると述べている。社会資源やマンパワーの不足で活動をあきらめるのではなく、島にあるものを活

かし、保健師が不足する役割を補完し、住民の力を借り、生活者と専門職者の役割を統合して活動していく力を修得することが重要である。

## 2. 離島の保健師の保健活動のスキル向上について

コアカテゴリーの一つに保健師の保健活動のスキル向上が抽出された。離島では保健、医療、福祉に携わる専門職が少ないことから、保健師は島内で同職種から On the Job Training を受ける機会が限られてしまう。離島の保健師がスキル向上を図るためには、島内で工夫して異職種や住民から学びを得ると同時に、島外の専門職から人材支援や、現任教員として技術支援を受けることが保健師の保健活動を支える両輪となっていることも特徴の一つである。

行政職員は住民の健康課題を保健師と共有し、生活者や行政職員としての意見、街づくりに対する考え方を保健師に進言するなど、保健師のメンターとなりえる。保健師は住民や行政職員を通じて対象理解を深め、【島内で工夫してスキルを磨き活動】する姿勢が重要である。また青木（2018）は、離島の保健師の人材育成の方法について、「住民との関わり」「活動方法」「活動体制」「現

表3 生活者としての活動

コード	文献No.	サブカテゴリー	カテゴリー	コアカテゴリー
住民と一緒に趣味活動を行いながら住民個々を観察し把握する	9			
住民として地域行事に参加して、生活の中で住民と関わる機会を多く作り、地域情報を得る	9			
地区組織活動を担う一員として住民と一緒に活動し、人材や地域の力量、住民意識を把握する	9			
地区組織や諸団体に一住民として参加することで、日頃の活動では関わることができない住民と接点・交流を持つ	10	生活者として地区活動に参加し地域を把握		
地域に溶け込み住民との関わりを深めて、将来の課題を予測する	9			
生活を通して住民と信頼関係を構築し、情報入手や介入をしやすくする	9			
島内で家庭を構えることで新たな立場や役割での付き合いが生まれ、地域をとらえる側面が増えて保健活動の幅が広がる	10			
住民との偶然あるいは意図的な接点を活用し、保健師として対応する	9			
生活する上での住民との接点で、自分が保健師であることを周知する	9	生活での接点を活用し、保健活動を住民に周知		
保健師(婦)活動の理解を得るため、住民が属する地域の統括者に自らの存在を売り込み、宣伝活動を行う	12			
自分の同級生・家族・親族と交流がある住民から得られる情報を統合して、集落特性や集落間の関係性、住民同士のつながり方とその強さ、変遷を把握する	9, 10			
生活を通して住民個々の人柄、価値観、考え方などの情報を把握しておき、保健活動への協力を得たい住民かを見極めてから、協力を求める	10			
生活で住民の普段の行動パターン・価値観・過去の出来事を把握しておくことで、住民の行動が予測しやすくなり、支援の必要性に早めに気づける	10			
自分も含め島民はそれぞれ島内で持つネットワークで、直接知らない住民のことも間接的に知ることができる	10	生活を通じて個人・家族の人間関係や行動パターンを把握	生活者の立場を活かして活動	
保健活動や生活で情報入手手段を複数持ち、得たい情報に応じて使い分ける	10			
生活で既に把握している情報があるため、事業対象に該当する住民の正確な把握にかかる作業を減らすことができる	10			
地域の噂の広がり方・構造を理解しておき、保健活動に関する悪い噂に気づいたら実態を把握し対処の必要性を判断する	10			
生活で把握した住民の生活パターンから、相手に負担のない時間帯に保健活動への協力を依頼することで、住民からの協力を最大に引き出す	10			
生活を通して長時間に渡り対象者やその家族を見守ることができ、生活の実態と真のニーズを把握できる	10			
自分や家族が島内で健康問題に対処した経験から把握した個々のニーズを基に、地域住民に共通するニーズを検討する	9			共同体の一員となり活動
島に住む関係機関職員や元保健師が把握した住民の声を、生活での接点で聞き取り集約する	10	生活を通じて離島のニーズを把握		
生活を通して地元企業の収益構造を知り、営業妨害にならないよう配慮しながら、充足されていないニーズに対応できるような保健事業を企画する	10			
活動後の住民や地域の反応や変化を生活のなかで直接観察、あるいは聞き取り評価につなげる	9			
個別事例への積極的関与が終了した後も生活の接点を利用し、継続して長期間見守り、評価ができる	9, 10	生活を通じて住民の経過を観察し保健活動を評価		
自分では対象者や家族への介入が困難だったケースには、生活の接点で観察して経過を把握し、関係者が介入できるようタイミングを図る	9, 10			
地域に住み住民と密接になることは長短所あることを意識して住民や地域を把握する	9			
住民との接点や関係性が偏ることにより保健活動の視点に偏りが出ないように意識して計画を立案する	9			
プライベートでつながりの深い住民の人間関係や事情で、活動しにくくなることもあることを意識して活動する	9			
支援住民が限定的にならないように注意して活動する	9			
保健師個人の習慣や価値観にとらわれないように注意し、客観的に地域のニーズを分析する	9	活動の公平性を保つ		
地域住民に同化することで他地域と比較する視点が乏しくなることを意識し、他地域と比較して地域の課題を明確にする	9			
私的に依頼される家庭訪問による健康観察に対し、地区により対応が異なるという不公平を避けるため、どの地区も対応しないことを決心する	10			生活者の立場を過信せず活動
苦手な対象住民との生活での接点では、保健活動に悪影響を及ぼすことがないように注意して関わる	10			
地域について把握していると過信しやすいことに注意し、根拠となるデータに基づいてニーズを把握する	9			
同じ地域で生活しているが故に気づきがつきにくい視点があることを意識して客観的に評価する	9	地域や住民を熟知していると過信せず活動を評価		
生活で自分と接点のある住民から把握した反応だけでは評価として偏りがあることを意識し、客観的に評価する	9			
対象住民を熟知しているとう過信から支援の必要性を見逃さないように注意する	10			

表 4 住民との連携・協働のあり方

コード	文献 No.	サブカテゴリー	カテゴリー	コアカテゴリー			
保健婦自身が地域住民であるという意識を意図的に持ち、住民の一人として住民と共に行動し、地域に溶け込む努力をした活動	12	生活者として住民と協働					
普段の生活における関係機関職員との個人的つながりや、地区組織や諸団体との共に活動した経験により、生活者として住民と協働するためのノウハウを培っており、それを仕事の協働に活かす。	10						
地域のキーパーソンの理解と協力を得て一緒に活動する	9						
島の当事者である住民と関係者とが連携協働し、地域ぐるみの活動を行う	13						
保健師と住民が共に健康問題の解決に取り組む	13						
住民の声を表明する住民を計画策定メンバーに推薦し、活発な意見交換を経て計画に反映させる	9						
島に長く居住すると業務時間外で島内機関の管理職と直接話せる場が増える。その機会を捉えて保健師としての意見を伝えることができ、新規事業の立ち上げや関係機関との組織的な連携体制の構築につなげる	10						
住民と情報や課題の共有が容易であり、関係者による素早い対処ができる	8						
地域住民との関係づくりや地域連携が容易である	8						
保健師は民生委員・知人・友人・隣人など専門職以外の力も借り、ターミナルケアが必要な対象者を支援	6				保健師として住民と協働	立場を変え住民と連携・協働	住民性・専門性・公共性を駆使し連携・協働して活動
退院に向けて診療所医師、看護師、警察官、介護職と地域会議を島で開催し、みんなで相談して進める	14						
「島丸ごと認知症サポーター養成講座」を受講した専門職と高齢者たちで事業（活動）を創り上げ実施できる	14						
生活する上での住民との接点で、保健活動があることや活動内容を周知しておき、後々住民の協力が得やすいようにする	10						
保健師自身も含めた住民の経験や意見を活用して、関係機関とのネットワークや連携体制を構築する	9						
業務と生活を通して住民の島内外の家族・親戚や人間関係を把握しておき、住民に支援が必要になった際に、それらの情報を生かしてサポートを依頼する	9, 10						
村役場の職員として上司や同僚らと連携して村のために働く	11	公僕として上司や同僚等の行政職と協働					
専門職である前に公僕として役場の職員と分け隔てなく仕事をし、医療以外の職員とも協働して活動	12						

表 5 ニーズに沿った役割・機能

コード	文献 No.	サブカテゴリー	カテゴリー	コアカテゴリー			
ルーラルナースは医療・保健・福祉の分野のさまざまな役割を担い活動	3	多機能を発揮					
へき地・離島の医療、保健、福祉は、各分野が互いに重なり、それぞれの役割が独立せず、専門家の役割分担は明確でなくなる	3						
担当を分けず全分野の人々へ対応	8						
様々な情報を多面的に考え対応する	8						
業務が多岐に渡り煩雑	8						
離島では、専門職者の専門性による役割分担より、「生活の全体性」「生活の個性性」「生活の連続性」「生活の地域性」の視点で多機能な地域活動を行っている	5				役割・機能を統合し多機能を発揮		
住民のニーズから出発し、(ないものなだりではなく) あるものを活かして活動	5						
島にはないターミナルケアを提供するために、高齢者福祉センターを活用し、ヘルパーも看護師も保健師もそれぞれのルーチン業務の枠を超えて役割を行った	6				役割・機能を再構成		
地域に必要なサービスがない場合は保健師が不足する役割を担い補完	9						
看護実践がインフォーマルな場で行われることが多い	3				住民と生活を共にし、ニーズを捉え柔軟に対応		保健師の保健活動の役割・機能の統合や創造
住民の求めや状況に応じてプライベートな時間を割いても必要な支援をする	10						
気になるケースには休日でもとことん関わることができ、自分の保健師としての活動の原点と思える経験ができる	10						
時間を問わず住民と共に活動する	12						
相談機関・専門機関が限られている中で活動する	7	島ならではの活動を創造					
社会資源の利用や離島ゆえの生活上の不便さ・限界を把握しておく	9						
島内の限られた資源・環境を活用した実現可能な計画を立案する	9						
限られた資源の中で地域に合った方法を模索し活動する	9						
離島ゆえの限界があり工夫が求められることを強みと捉え活動意欲を保つ	9						
対象や施設の対応能力で支援を判断せず、新しいアイデアを取り入れる	13						
島だからとあきらめず、課題解決への強い思いを持ち活動	13						

表6 公衆衛生看護技術の向上

コード	文献No.	サブカテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー
保健所が新人教育に取り組み、離島の保健師に地域診断、重点保健活動計画の樹立などの技術支援をした	2			
県保健師から、検診でのプライバシーの保護、検査データの管理、資料作成・提示の方法などの支援を受けた	2			
島外と同職種から部分的にメンタリングを得て活動	4			
県主管課・保健所・看護協会が互いの役割を意識しながら離島の保健師を重層的に支援している	15	島外の保健師から技術支援を受け活動		
島外のベテラン保健師は離島の保健師の応援に留まらず、人材育成の視点を兼ね備えた支援をしている	15			
退職保健師がコーディネーターとなり、離島の新任保健師のOJTを実施し、支援している	15			
新人保健師のOJTだけでなく先輩保健師に対しても、(島外のベテラン保健師が)保健事業の整理や仕組みづくりを支援している	15		島外の専門職から支援を受け活動	
事業に必要な人材を島外から確保できるよう連絡調整を行う	9			
外部へ支援を要請し活動	13			
外部支援者からケアやケース支援の方法を学ぶ	13			
外部支援者と島の専門職との協働で工夫する	13	島外の専門職から人材支援や研修を受け活動		保健師の保健活動のスキル向上
外部支援体制(ねらい、考え、期待、構成、リクルート等)を創る	13			
当事者や関係者に呼びかけ、外部支援者による研修会を開催し共に学ぶ	13			
保健師と外部支援の専門職が保育園や幼稚園に出向き研修を重ね、統合保育への理解を深め、保育士が障害児の受け入れに自信がつくよう活動	13			
精神専門は島には居ないので、看護師と相談し、アドバイスをもらったり、医学情報を収集して事例に関わった	14			
島内の異職種を役割モデルとして活動	4	島内の異職種をモデルに活動		
保健師1人配置であったため、活動発表の場を活用して自己の活動を振り返り、保健所からサポートを受け活動した	4			
1人での活動を模索し、自分にできそうなことを見つけて取り組み、活動を振り返りながら実践能力を高めていった	4	1人で模索しながら活動		島内で工夫してスキルを磨き活動
自分が保健師であることはどの住民も知っており、生活での接点に住民が進んで語る内容からは地域看護活動への新たな視点を学べる	10			
行政主催行事や住民との日常的な関わりなど島内でできることを研修の一環として捉え、学ぶ姿勢で参加し、島外研修の不足を補う	9		住民との関わりを学びと捉え活動	
住民から学べるかどうかは、保健師が人々がどのようにこの土地で暮らしているかをどこまで見ようとするかに左右される	10			

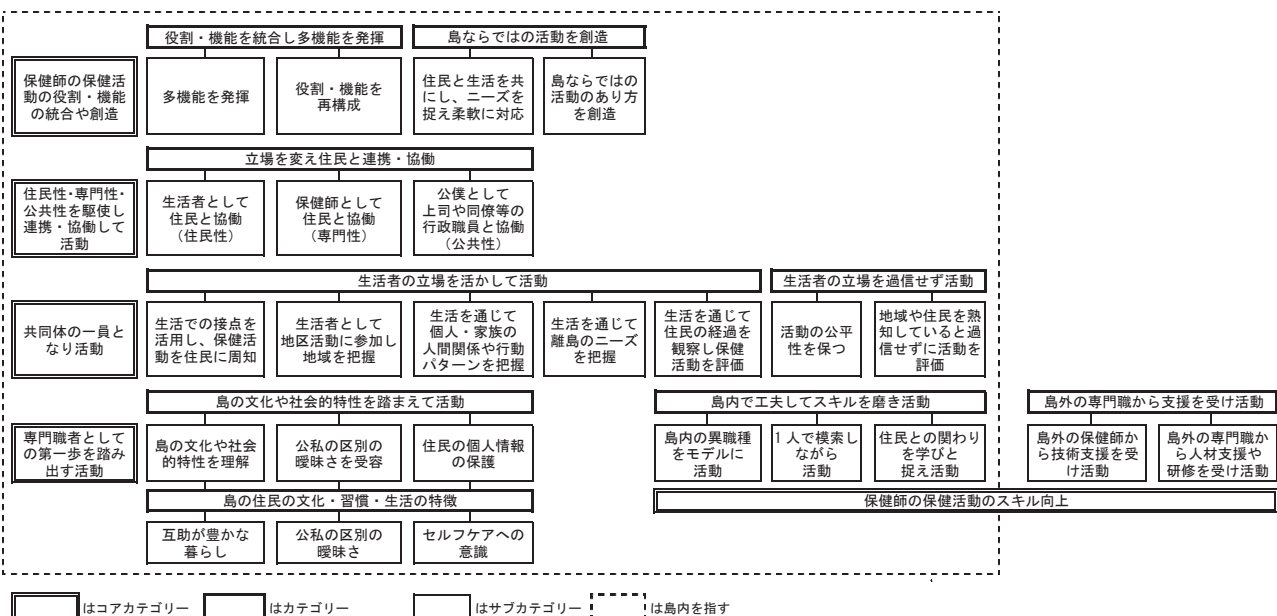


図2 離島の保健師の保健活動の特徴ー生活者と専門職者の役割を統合して活動ー



任教育」「地域特性」の5つを挙げている。さらに沖縄県では、県主管課・保健所・看護協会が互いの役割を意識しながら離島の保健師を重層的に支援しており、島外のベテラン保健師が現任教育として島へ赴き、人材育成の視点を兼ね備えた支援をしている(永山, 2020)。保健師自身が生活者と専門職者を統合して活動する力を修得すると同時に、島外の保健所保健師や退職保健師から技術支援などの現任教育を受け、スキル向上を図ることが必要である。また、保健所長が役場幹部へ働きかけ保健サービスの不足について対策会議を開催した(美濃, 2001)ことから、行政組織が外部からの支援を受けることも、離島の保健師の活動体制を整備することにつながると考える。

## V. 本研究の限界と今後の課題

離島の保健師の保健活動を報告している文献は少なく、一部、ルーラルにおける看護師の特徴も活用し、離島の保健師の保健活動の特徴を導き出した。今回の文献検討で導出した「離島の保健師の保健活動の特徴」を、離島の現任保健師からインタビュー調査を用いて検証し、離島で創成される新たな役割・機能を補完していきたい。

## VI. 結論

離島の保健師の保健活動は、『専門職者としての第一歩を踏み出す活動』から始まり、生活者として住民と共に『共同体の一員となり活動』し、時には立場を変え『住民性・専門性・公共性を駆使して連携・協働して活動』し、『保健師の保健活動の役割・機能の統合や創造』を行い、これらを行き来しながら生活者と専門職者の役割を統合して活動する特徴があった。また、スキル向上を図るためには、島内で工夫して異職種や住民から学びを得ると同時に、島外の専門職から人材支援や技術支援を受けることが、離島の保健師の活動を支える両輪となることが示唆された。

## 謝辞

本研究をご指導頂きました研究指導教員をはじめ諸先生方に心より感謝申し上げます。この研究に関する利益相反はありません。

## 引用文献

青木さぎ里, 春山早苗. (2013). 離島保健師が離島内に居住することと地域看護活動との関連. 日本ルーラルナーシング学会誌, 8, 17-30.

青木さぎ里, 春山早苗. (2015). 離島内居住保健師の実践知とその獲得方法の検討～保健師自身の生活と地域看護活動とを結びつける認識に着眼して～. 日本ルーラルナーシング学会誌, 10, 51-66.

青木さぎ里, 春山早苗. (2018). 島で保健師になるということ. 島嶼研究, 20(1), 23-30.

石垣和子, 野口美和子, 大湾明美他. (2016). 島嶼における地域看護活動の展開方法に関する研究. 日本ルーラルナーシング学会誌, 11, 27-42.

稲垣絹代. (2000). 超高齢過疎地区で高齢者が生きる意味—瀬戸内海島嶼部での民族看護学的アプローチ—. 老年看護学, 5(1), 124-130.

大平肇子, 小林文子, 吉岡多美子他. (2002). 日本におけるルーラルナーシングの役割モデルについての研究. 三重県立看護大学紀要, 6, 75-84.

大湾明美. (2007). 離島の保健医療看護—公衆衛生看護婦の「活動遺産」を引き継ぐ—. 保健の科学, 49(11), 744-749.

大湾明美, 坂東瑠美, 佐久川政吉他. (2008). 小離島における「在宅死」の実現要因から探る看護職者の役割機能—南大東島の在宅ターミナルケアの支援者たちの支援内容から—. 沖縄県立看護大学紀要, 9, 11-19.

大湾明美, 田場由紀, 山口初代他. (2020). 小離島における看・看連携推進のためのモデル開発. 日本ルーラルナーシング学会誌, 15, 31-42.

加藤典子, 山口道子, 田中志保. (2018). 公衆衛生看護における保健師の現状と求められる能力. 保健医療科学, 67(4), 413-421.

川崎道子, 永吉ルリ子, 牧内忍他. (2012). 沖縄県における保健師駐在制のメリット・デメリットおよび継承すべき能力. 沖縄県立看護大学紀要, 13, 39-48.

厚生労働省. (2013). 地域における保健師の保健活動に関する指針.

島袋尚美. (2016). 沖縄県中堅保健師のキャリア発達における保健師マインドの継承. 名桜大学紀要, 21, 55-65.

田中美延里, 小野ミツ, 小西美智子. (2005). 先駆的な公衆衛生看護活動を展開した保健師のキャリア発達—離島の町の保健師のライフストーリーから—. 広大保健学ジャーナル, 5, 16-27.

永山さなえ. (2020). 離島へき地の保健師活動に対する沖縄県看護協会の支援. 看護, 72(12), 38-41.

野口美和子. (2014). 島しょに求められる看護職者の役割拡大. 日本ルーラルナーシング学会誌, 9, 65-68.

畑下博世, 金城八津子, 鈴木ひとみ他. (2017). 現代保健師が獲得すべき態度とスキル—沖縄県島嶼における駐在保健婦の実践からの検討—. 社会医学研究, 34(1), 31-39.

春山早苗. (2008). 島嶼地域の看護人材確保と提言. 日本ルーラルナーシング学会誌, 3, 15-19.

美濃千里. (2001). 離島の町が保健師を確保していた足跡. 保健婦雑誌, 57(9), 718-721.

盛島幸子, 大湾明美, 野口美和子. (2001). 島嶼における保健看護活動の評価のあり方—宮古保健所管内における母子保健活動の過程を通して—. 沖縄県立看護大学紀要, 18, 67-73.